

子どもたちへ

平和教育の周辺

—5—

非核の願い母から子へ

を演じた。
「いやなことははっきりと」
—と宣言、ありのままの自分
を出せて、それを受け入れてく
れる。そんな学校になったら
いいね—
「きつとそういうことが私た
ちにとっての平和なんじゃない
の？」
「そんな学校を自分たちでつ
くっていきけるように、みんな
がんばっていきましょう—
こんなせりあいで締めくくられ
た。」

東北の山間部に位置する三良坂町。人口四千余人の小さな町の一角に平和公園がある。米国をはじめ世界各地で核実験が繰り返されるたび、多いときには百人以上の町民が抗議の座り込みを集まってくる。

広さ約六千平方メートル。その中央部には、非核・平和を願う「母と子—わたす像」が立つ。母から子へ平和のともじりを手渡す姿が、石像に表現されている。

一九八〇年代半ば、県内各地

わたす像

で「非核平和宣言」を表明する自治体が相次ぐ中、三良坂町でも機運が高まった。労組などが署名活動に乗り出すと、町民の三分の二以上が賛同した。公園ができたのもそのころだ。

《町や村から子どもたちの笑いや若者の歌声が消え、生きものすべてが沈黙し、いのちと幸せなくらしが奪われる、これが核兵器なのだ》

「恒久平和への誓い」と題して八六年六月に発表された宣言は、さらにこう続く。

《ふるさとの町から日本と地



球のすみずみまで核兵器をすてよと訴え、人々の切なる希望を実現することを誓う》
町には不釣り合いなほど大きな目標にも見えるが、「単なる表明に終わらせないために」との決意を込め、その実践が始まった。

二五月後、多くの署名に託された町民の思いを無駄にすまいと、当時の吉岡雅樹町長（故人）の提案で「平和を願う会」が結成された。教育委員会、公民館、若人クラブ、商工会、農協、PTA、労組、被爆者……。町のあらゆる団体が結束した珍しい組織だ。

「原爆の日」の前には平和公園で集会を開いてきた。戦争体験者の話を聞いたり、町民が手作りした灯ろう数百個を並べて原爆犠牲者を悼んだり。

今年は九日の開催。解散した人気ロックバンド「X JAPAN」のメンバーだったTOSHIのコンサートもある。吉岡前町長の後を継いだ湯免龍夫町長（左）は「町外からも子どもと和公園で

55回目の朝、三良坂でも「誓い」

ちや若者らに集まってほしいから」と企画の理由を説明する。非核平和宣言に盛り込まれた精神を、少しでも広げようとの試みだ。
九一年には公園に隣接して、全国でただ一つといわれる「平和美術館」ができた。展示の中心は、地元出身の反戦画家柿手春三の作品。毎年夏には平和美術展が開かれ、県内外の作家が絵画や彫刻を寄せる。
年間五千人の見学客のうち八割が町外からだ。佐々木慎子館長（左）は「町から平和を発信する一つの拠点になっていると思う」と話す。

町ぐるみの取り組みは、子どもたちにも広がっている。
今月一日、町立体育館で開かれた「子どもたちの平和集会」。町内四つの小中学校の共催で、今年六回目を迎えた。平和とは何か、一人ひとりに何ができるのかを考える集いだ。
今年集会を前に、子どもたちの実行委員会が四校でアンケートをした。「今、学校にいじめはあると思いますか」という質問に、あると答えたのは七十七%。この結果を受けて中学生たちは、いじめをテーマにした劇